

博物館だより

No.236

令和8年7月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津 1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館休館日カレンダー
2026年7月

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1

休館日 ※情報はR8.6.15現在

昭和100周年 みやこ町制20周年記念特別展 「昭和100周年」と吉田増蔵 大盛況のうちに閉幕

令和8年(2026)は「昭和100周年」の節目の年です。この「世界最長の元号」昭和を考案した吉田増蔵の生涯や功績に関わる貴重な資料をはじめ、「昭和レトログッズ」などを展示した特別展を4月29日(昭和の日)から先月21日まで開催しました。期間中、町内外から多数の来館者がみられ、口々に「懐かしい!」の言葉を繰り返しながら、それぞれの昭和の思い出を振り返っていました。

また、映画「ALWAYS 三丁目の夕日」で実際に使用された三輪車「ミゼット」は特に注目を集めていました。さらにAI(人工知能)により昭和に撮影された写真をカラー、動画化した映像に多くの方が驚き、技術の高さを感じていました。

昭和の生活空間を再現した展示では、「昭和の世界へ一瞬、タイムスリップしたような感覚になった」というコメントをいただいたくなど、会期中は館内が「昭和一色」に染まりました。

現在、最も注目されている「昭和」ですが、今回の特別展を通じて町内外の多くの方々に広く知っていただく貴重な機会となりました。



▲「昭和レトログッズ」の展示。「懐かしい〜!」の一言です。



▲「ミゼット」のまわりには、いつも多くの人が集まりました!

◆ 講座・教室・催し物ガイド 7月の歴史講座

【漢詩紀行講座】

7月4日(土) 9時30分〜

【古文書講座】

7月11日(土) 10時〜

【古典かな講座】

7月18日(土) 9時30分〜

【みやこ学講座】

7月25日(土) 10時〜

※日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途ご案内します。

◆ みやこ町ふるさと遺産フェスタ 絵画コンクール作品募集!

博物館では「これからも残したい」と思う地域の風景や文化財、歴史的な建物、お祭り、自然、日常の暮らしなどを、ふるさとの魅力を自由に描いた作品を募集する絵画コンクールを開催します。作品の応募方法は次のとおりです。

【応募要領】

● 作品の規格等

四つ切りの画用紙を使用し、画材は自由ですが、油絵は応募できません。

● 応募資格

町内在住、若しくは町内小・中学校に通学している児童・生徒

● 応募できる作品数 1人につき1点

● 応募方法

応募票に必要事項を記入し、作品の裏面に貼付。博物館に郵送または持参。作品の応募は学校単位、個人単位いずれも可。

● 応募締切 令和8年9月9日(水)(必着)

● 応募先・問い合わせ先
みやこ町歴史民俗博物館

「絵画コンクール」担当

TEL 0930-33-4666

5・6月の業務日誌から

5月8日(金)元号「昭和」考案者、吉田増蔵ゆかりの黒田小学校の6年生の児童が特別展に来館しました。校区及び学校の先輩が残した偉大な功績を物語る数々の資料を前に驚きの様子でした。

6月7日(日)恒例の博物館友の会研修会で大分県豊後高田市、中津市を巡りました。「昭和の町」では駄菓子屋の夢博物館小宮館長から展示資料や街中の商店などについて詳しい説明を聞くことができました。



▲「昭和」の教室で説明を聞き、文字どおり「童心に帰る」ことができました。



▲学校の先輩が残した功績や生涯について詳しく学ぶことができました。

みやこの歴史発見伝 188
みやこのゆかりの先人による
地下資源調査

地質図150年

例年、梅雨後半となるこの時期は豪雨災害が多発する傾向がみられます。地域の地形や地質などの特徴から、想定される土砂災害などの自然災害を予測し、被災範囲を地図化したものが「ハザードマップ」です。

みやこ町では2年前に改訂され、浸水域や避難所などが分かりやすく明記されています。このハザードマップは様々なデータに基づいて作成されますが、中でも特に重要な資料となるのが「地質図」です。

地質図は、地質調査の情報を元に、地表付近の地層について堆積状況やその組成、断層などの地質構造を図化したもので、現在、土木工事や自治体の防災マップなど、様々な用途で活用されています。

その起源は約3000年前の古代エジプトの時代まで遡りますが、日本では明治9年(1876)に国内初となる広域地質図「日本蝦夷地質要略之図」がアメリカ出身の地質技師ベンジャミン・ライマンにより作成、発行され、今年で150年を迎えます。

今回は、この地質図作成の時代的な背景や同じ時期に地質調査に

携わったみやこ町のゆかりの先人についてご紹介いたします。

目的は「資源開発」

現在、アメリカとイランの対立により石油の輸入に支障が生じ、特に「ナフサ」由来の各種製品不足が顕著にみられるなど、経済活動や私たちの日常生活に深刻な影響を及ぼしています。このような事態を受け、約半世紀ぶりに石油という地下資源の依存度の高さを再認識することになりました。

今から約150年前、「殖産興業」と「富国強兵」を推し進める明治政府は、その実現に必要な石炭など各種の地下資源について埋蔵量の調査やその開発を急務とし、その先駆けとして北海道の開拓及び道内鉱山の開発を試みます。

この時代、日本政府などに雇われた、近代化に必要な西欧の先進技術や知識を持つ外国人を「お雇い外国人」と呼びます。アメリカ人地質学者のベンジャミン・ライマンもその一人で、彼は明治6年(1873)に招聘され、3年間にわたって資源探査を目的とした北海道の地質調査を実施しました。この時、開拓使仮学校(後の札幌農学校)の生徒13名が助手として随行しますがライマンは、これらの青年たちに、測量・地質・鉱物学の専門的知識を伝え、彼の編みだした地質調査技法は日本の地質学

発展の基礎になったといわれます。この調査は北海道の厳しい自然環境の中、熊に警戒しながらクマザサをかきわけて進む過酷なものでした。彼は3年に及ぶ調査を遂行し、その成果として「日本蝦夷地質要略之図」(200万分の1)という北海道の地質図を完成させています。

この図は石炭や石油、硫黄、鉄鉛など天然地下資源を含む地層が色分けで図示されています。ライマンは地層の厚さから、その埋蔵量を見積もる技法を考案していますが、この技法は、その後の鉱山開発の基礎となっています。ライマンの地質調査は、新たな鉱物資源の発見と開発を目的としたものでしたが、この当時、エネルギーの中核を担っていた石炭に関する調査が特に重視されました。

彼は明治12年(1879)まで東北・北陸・中国・四国・九州の石炭・石油・地質調査を行っていましたが、日本の石油生産量ははじめて世界の石油統計に提示されたのは明治8年(1875)ですが、彼は、その後のエネルギー需要を支える「石油」の調査・開発を先駆的に行っており、特に新潟油田の開発に大きな影響を与えたと伝えられます。

その後も地質図製作は重要な国家事業として、現在まで継続され、全国各地の地質図が作成されて様々な分野に活用されています。また北海道の地質調査時に助手と

して随行した生徒は後に、明治期の鉱業の発展に寄与しています。またこの中には、田川など筑豊炭田の近代化に努めた人物も含まれています。

町ゆかりの先人による資源調査

元号「昭和」を考案したのは、みやこ町出身の吉田増蔵です。彼の兄で、大久保利通に仕え、殖産興業の発展に尽くした内務省の官僚、吉田健作は、明治15年(1882)6月に北海道各地を調査し、ライマンの地質調査と同様に石炭など地下資源の調査をはじめ道内各地の農水産物に関する調査を行い、その結果を「北海道紀行」という報告書にまとめています。

この記録は、その後、彼が設立した「北海道製麻会社」の建設につながり、また国が北海道開拓を進める上で大変重要な資料に位置付けられました。またライマンと同じ「お雇い外国人」のウイリアム・

また約9万年前に噴火した阿蘇山の火砕流の痕跡が町内の各所で確認され、伊良原ダム周辺では、石炭をはじめ軽石や、珪化木(樹木が化石化したもの)などが確認でき、これらは様々な日用品に加工されています。

このように、この町の歴史の中でも築造された史跡や育まれた文化にも地質が大きく影響してきたことをうかがうことができます。



クマザサをかき分けて北海道の調査を行う吉田健作(先人マンガ『吉田兄弟物語』より)